



指定ごみ袋署名

市民の声を届けました

1月16日、「ごみ袋と環境を考える会」は、市に指定ごみ袋の義務化に反対する署名792筆を提出しました。会は「透明もしくは半透明の袋」でもごみ回収を実施することなどを求め運動を進めてきました。

同席した高橋あきら議員は、「物価高騰で指定ごみ袋は4割近く値上がりし、家計を圧迫している。指定ごみ袋以外のごみ袋でも、分別されていけば回収すること、落葉等に市販されている大きな袋も認めるよう」求めました。

補聴器補助の署名

「らさ」などの項目を設け、意見聴取をしたい。要望をしっかりと受け止めます」と話されました。高橋あきら市議が同席しました。



2月2日、社会保障推進流山協議会は、流山市長へ「加齢性難聴者の補聴器購入補助を求める署名」(1647筆)を提出。会からは、「国の新オレンジプランにも認知症の危険因子として難聴も記述されており施策に位置付けてほしい」と要望しました。対応した高齢者支援課長は「第9期介護保険計画の策定に向けたアンケートに「聞こえづ

2023.2 第228号

ニュース わかば

日本共産党流山
東部後援会

〈部内資料〉

発行責任者 安藤次子 TEL 090-6565-1749

大軍拡NO! 暮らし・平和を

43兆円あれば…

子ども・教育

- ・学校給食無償化…4400億円
- ・児童手当高校まで…1兆円
- ・大学学費半額…1兆6500億円

医療・福祉

- ・高齢者医療1割…300億円
- ・介護保険利用無料…1兆円
- ・ケア賃上げ8万円UP…2兆円
- ・消費税2%減…4兆3146億円

大增税なんてとんでもない。物価高騰で大変…税金を暮らしにまわして!

敵基地攻撃って? トマホーク500発も購入するの? 専守防衛なのに…

憲法9条の日本は、平和的に話し合い、外交で解決していくべきでは…

戦争の準備するのが怖い!! 今にも戦争が始まりそうで怖い!!

地域から声を上げよう



敵基地攻撃能力

- ・賛成 1人
- ・反対 38人
- ・?? 5人

軍事費43兆円

- ・賛成 1人
- ・反対 36人
- ・?? 6人



◎…南柏駅でシール投票を行ないました。圧倒的な方が反対でした。どんどん声を上げていきましょう。

◎…地域で宣伝していたら「TV、新聞を見ても腹が立つ、医療費も高くなった。軍事費につぎ込むなんて…」と怒ってます。

大軍拡・大增税NO 署名に御協力を!!

住民の声が市を動かした

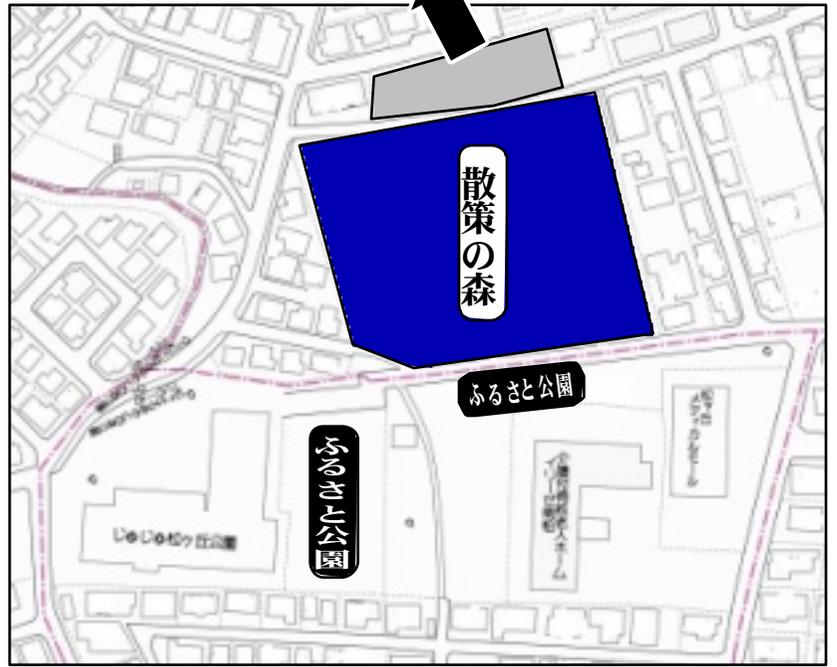
「散策の森」購入の予算がつく



身近な所から緑がドンドン無くなつて、悲しい思いで一杯でした。どこが「都心から一番近い森のまち」なのかと…。最近も、松ヶ丘地域で林が伐採さ



今回 伐採された林



れてしまいました。3月議会の予算案で「散策の森」を、市が購入する予算が提示されました。「ふるさと公園を残して」の住民の運動が、市を動かしました。

“あきら”のホッと

大往生

96歳の母が、1月に静かに天国に行きました。戦中は看護師として働き、空襲の時は兵士を担いで避難したと聞いています。ですから、家にはアルミの箱に入った注射器がありました。戦後は男3人を育て、自分で起業し

て不動産屋を立ち上げました。子どもが大きくなってから、60歳頃から油絵を始めて驚きました。昔、居間に油絵が飾ってありましたが、誰が描いたのか聞くのを忘れていました。

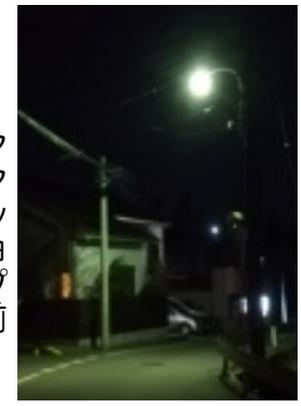


道路灯の点灯

交差点(芝崎〜宮園)



第3コミュニティ付近(古間木)



ママシヨブ前(長崎1-7-27)



八木中の通学路の整備

防犯灯と植栽伐採



道路の舗装

(あずま学童クラブ前 名都借853)



道路の舗装

木谷工業へ続く道路(名都借0501)



穴の整備 側溝のフタ



名都借3222 → 前ヶ崎2-22

身近な要望実現

要望・改善点をお寄せください。

映画紹介

「インドのんびり」

2021年インド・フランス 柏キネマ旬報シネマ 2/25 112分

【あらすじ】インドの田舎町でチャイ売りをして父を手伝っている9歳の少年サマイ(バビン・ラバリ)、厳格な父は映画は低劣なものだと断じるが、ある時サマイが映画館へ行くと後方からスクリーンへと伸びる一筋の光が…。映画の魅力にすっかり虜になったサマイは映画技術のファザル(バヴェー・シユリマリ)からある提案を持ちかけられる。それはサマイが持つてくる母の手作り弁当とひきかえに映画室から映画を見せるということだった。彼はたくさんの映画を見て、さらに映写機の仕組みを教わるうちに映画作りの夢を抱き始める。これはインド・グジャラート州出身者で初めてアカデミー会員に選ばれたパン・ナリン監督の自伝的物語である。

【見どころ】インドの片田舎に生きる貧しい少年を描きながらフィルムへの愛を高々と歌い上げるといふ、いわば現代版ニュー・シネマ・パラダイスである。

(長崎 大塔隆義)